

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	岡山商科大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	オカヤマショウカダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	中国・四国地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	テーマパークデザイン論
	学部・研究科等名	経営学部商学科
	担当教職員名・役職	三好 宏・教授 ソンゾン・講師 大石 貴之・講師
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	10
	受入企業等数	1
	受入企業等名	株式会社リレイション
	インターンシップの分類	6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	徳島県徳島市に拠点を置く株式会社リレイションを受入先とし、2014年度より協働してインターンシップ事業を実施している。同社は、地域づくりに関わるマネジメントを主な事業としており、授業においては、徳島県神山町を実施地域とした、地域づくり事業にかかわるワークショップ、課題解決ワーク、農作業活動などを実施している。
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		2年次～4年次
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		本インターンシップは、夏季休業中に実施している専門教育科目であり、経営学部商学科の選択必修科目として位置づけられている。2～4年次生を対象としているが、主な受講者は2年次生である。なお、受講後の評価を経て2単位を付与している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習について、まず学生には本インターンシップの目標について確認させ、対象地域である神山町について講義するとともに、そこでどのような取り組みが行われているか、受入企業との関わりについて調査・研究等を実施している。また、現地でのインタビュー調査等に際し、地域の人々とかかわる際の注意事項について説明している。

	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後学習について、インターンシップ期間中には日報を記載させ、当日の内容について振り返りを実施している。また、インターンシップ最終日には、それまでの成果についてまとめるとともに、受入企業に対する報告会を実施し、受入先からの講評を受けるとともに、本学教員による成果目標の達成に関する確認作業を実施している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	モニタリングについて、インターンシップ期間中は3名の教員が常に同行し、学生の動向について把握するとともに、定期的に面談を実施している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ実施後は、対象地域における地域づくり活動を経て、学生自身の身近な地域に対する考え方や在り方をテーマとするレポートを作成させ、それをもって学生の意識の変化を把握している。また、実施後は受入先と担当教員とで反省会を実施し、学生の行動や言動に関する変化について相互で確認している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間7日間(うちインターンシップ実施期間4日)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本インターンシップは3泊4日の日程で実施しているが、事前学習として、対象地域や受入先について調査・研究を実施する期間を2日設けている。また、事後学習として、インターンシップのまとめに関する講義と受入先に対するお礼状作成を実施する日を1日設けている。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受講者募集前において、担当教員が受入先の担当者と打ち合わせを繰り返し行い、プログラムの設計や内容の策定を行っている。事前学習においても、受入先から講師を派遣してもらい積極的に関与してもらっている。インターンシップ中は、受入先の担当者が常に同行し、教員と協働してプログラムを進め、目標達成に導いている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	岡山商科大学
	担当部署名	経営学部商学科
	担当者役職名	准教授
	担当者氏名	大石貴之
	電話番号	086-230-6158
	メールアドレス	oishi@po.osu.ac.jp